

2025.2.26

阿蘇地域における 低・未利用資源を活用したエコフイード 生産体制の構築

飛岡久弥・小坂今朝和
(阿蘇周年放牧エコフイード協議会)

講演内容

1. エコフィード生産体制作りと放牧
2. 飼料作りの実際と飼料成分
3. エコフィードの給与効果とまとめ
4. 小坂牧場での越冬放牧牛等の飼育状況

1. エコフィード生産体制作りと放牧

エコフィード作りの経緯

- 我が国の飼料自給率は極めて低くて20数パーセントしかなく、大きな問題である。広大な草原を有する阿蘇でも、この草資源を利用した放牧は停滞している。
- 動物福祉の向上や環境保護にも合致する放牧を推進するための補助飼料の自給は、今まで以上に重要になってきている。
- 越冬放牧は、低コスト家畜生産の柱としてその重要性が指摘されながらも、その普及は厳しい状況である。その要因の一つが、越冬時に給与される飼料の問題である。
- 演者の一人は1995年から大学で肥育羊、合鴨、産卵鶏、育成・肥育牛、越冬放牧牛等の飼料設計と生産を手掛けてきた。
- 退職後に開設した阿蘇あか牛羊牧場では跡ヶ瀬牧野組合と協同で、地域の低・未利用の飼料資源を活用して越冬放牧牛用および周年放牧羊の補助飼料作りを行ってきた。
- その後、10戸の農家で阿蘇周年放牧エコフィード協議会を結成し、エコフィードの生産と利用を開始した。



鶏放し飼い, Ger

動物福祉(ドイツ)



周年放牧(阿蘇市)

放牧や
環境
保護
等の
重要性



羊放牧, Scot

環境保護(英国)



シンメンタール種、スイス

放牧適応(スイス)



赤水牧野(K牧場)



跡ヶ瀬牧野(T牧場)

阿蘇で
の越冬
放牧
の状況



M牧場



阿蘇あか牛羊牧場

子牛1頭当りの生産原価と 周年放牧の効果 (1990年頃調査、熊本県)

単位：円／頭

飼養方式	生産原価	指数
周年放牧	92,683	43.4
夏山冬（水田・畑）放牧	141,421	66.3
夏山冬里	182,853	85.7
舎飼	213,322	100.0

エコフィード生産と利用の流れ

規格外カンショ、豆腐粕、醤油粕等を利用した発酵混合飼料の調製と利用



越冬放牧牛や放牧
羊への給与



畜舎飼育牛
への制限給
与

経産肥育牛
や育成牛へ
の給与

エコフィード生産体制の変化（組織面）、2014年11月～2025年3月

年月		構成牧場										ボランティア ティア
2014年11月		阿蘇あか 牛羊牧場	S牧場	TA牧場								3名～ 13名
2015年11月												
2016年11月												
2017年11月												
2018年11月												
2019年11月												4名～ 8名 有償
2020年11月					MA牧場	放牧で頑張ろうの会（放牧現地勉強会）※						
2021年11月		阿蘇周年放牧エコフィード協議会				MB牧場	K牧場					
2022年11月～12月								TB牧場	Y牧場			
2023年4月～翌年3月										EA牧場	EB牧場	
2024年4月～翌年3月												
2025年4月～												

※会の標語： 舎飼飼育10頭から放牧飼育30頭で、草原や田畑を守り、農村生活を楽しもう！

2022年7月から農水省助成事業で採択される「エコフィード生産安定供給体制の構築のための技術実践」



飼料作りと家畜への給与の様子



放牧家畜の越冬・補助飼料 づくり(TDN80%,CP13%)

- 日時：2025年 1月25日（土）
午前7時40分出発～17時頃解散。
- 集合場所：東海大学熊本校舎近くのセブン（7時35分）
または8時・肥後大津駅南57号線沿いローソン駐車場
- 募集人数： 先着7名
- 手当6000円、参加費1000円（弁当代、飲み物代等）
- 昼食等： こちらで準備します。
- 参加申込み： 下記メールアドレスに連絡して下さい。
hisaya.tobioka@tokai.ac.jp
- 詳細は、次のページを参照してください。

留意事項： 感染症対策の関係で、行事当日、発熱や体調の悪い場合、参加ができません！

内容詳細

（主催： 阿蘇周年放牧エコフィード協議会）

1. 活動目的

我が国の飼料自給率は極めて低く、20数パーセントしかなく大きな問題です。広大な草原を有する阿蘇でも、この草資源を利用した放牧は停滞していて大きな課題です。このような現状から、動物福祉の向上にも合致する放牧を推進するための補助飼料を自給することは、重要になってきています。私たちは2014年から地域の低・未利用の飼料資源を活用して越冬放牧用飼料を、それ以前には育成牛や肥育牛の飼料作りを行ってきました。現在、農林水産省の助成を受け、この規模を大きくする取り組みを行っています。

このためには若い方の応援が必要です。是非ボランティアとして参加し、現場での餌作りを体験し、放牧を支援しましょう！

2. 実施要領

1) 日時と場所

2025年 1月25日（土）

阿蘇市永草の村上牧場

2) 集合場所・時間

東海大熊本校舎近くのセブン・7時35分集合／40分出発、または肥後大津駅南57号線沿いローソン駐車場・8時、その他相談に応じます。

3) 作業の内容： 飼料原料の混合、飼料の袋詰め作業、完成飼料の農家への運搬など

4) 作業時間： 9時～16時、17時頃熊本市内帰着

5) 持参品： マスク（各自判断）、長靴（運動靴）、作業着、手袋、帽子、タオルなど

6) 昼食等： 昼食・飲み物・軽食はこちらで準備します。

7) 手当6000円、ただし、参加費1000円（弁当・飲み物・軽食代等）。
差し引き5000円受取。

8) 募集人数：先着7名

9) 参加申込み：氏名、携帯番号、集合場所を記して、下記のメールアドレスに連絡して下さい。
hisaya.tobioka@tokai.ac.jp

3. 問合わせ先：阿蘇あか牛羊牧場：飛岡（東海大名誉教授）

上記メールアドレスあるいは携帯（090-1347-2962）まで

4. 今後の予定（毎月1回）： 基本的に毎月最後の土曜日